



● Culture



角川まんが学習シリーズ「世界の歴史7 ひとつながりになる世界」©KADOKAWA CORPORATION 2021 ヨーロッパ人が世界に進出する中、アステカがコルテスによって滅ぼされた

米大陸の歴史 乏しい教育

アメリカ大陸の歴史研究では、時代を「植民地化以前」「植民地期」「独立後」に区分し、「植民地化以前」を「古代」と呼ぶのが一般的だ。15～16世紀のアステカも「古代」に位置づけられる。

日本で言えば応仁の乱、ヨーロッパではオスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼしたのと同時代にもかかわらず、「古

代」という言葉から、古く、遅れた文化だったとする印象が一般に生じた。

青山和夫・茨城大教授(マヤ文明学)は、ユカタン半島を中心に紀元前1100年頃から続き、16世紀にスペイン人に侵略されたマヤ文明も同様だという。「マヤもアステカも、侵略した側のスペイン人の目線、戦争に敗れた遅れた文

明として歴史が書かれた」と話す。19世紀にメキシコや中央アメリカ諸国が植民地から独立した後、ヨーロッパ人の探検家が「古代文明」の遺跡を「再発見」する。その際も「先住民の祖先に大都市が造れたわけがないとして、外部からの移民が築いた文明だと考える偏見があった」という。

青山教授は、「西洋中心的な歴史観の影響で、日本の学校教育でもアメリカ大陸の歴史について内容が乏しく、見直しが必要だ」と訴えている。

* 歴史研究が深まるにつれて世界史のトピックは見直されています。「世界史アップデート」では、研究成果を反映した最新説を、広く知られた従來說と比較しながら紹介します。「日本史アップデート」と隔週で掲載する予定です。